

北九州憲法ネットニュース

2006年12月28日(木) 第19号

発行 憲法をまもる北九州市民ネットワーク

803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F

TEL & fax 591-5522 E-mail⇒mail@kitaq-kenpou.net

URL⇒http://kitaq-kenpou.net/

政府・与党による教育基本法改悪法案強行採決の暴挙に怒りをこめて抗議する!

——日本国憲法に立脚し、改悪基本法の具体化、教育現場へのおしつけに反対し、新たな決意で闘いぬこう! ——

教育基本法の改悪、そして憲法

…そんなに急いでどこに行く?…

九条の会・北九州憲法ネット代表世話人荒牧 啓一

師走の15日、安倍首相が今国会の最優先課題に掲げた「改正」教育基本法が参院本会議で自民・公明の賛成多数で可決成立した。同じ日に、防衛庁を「省」とし、自衛隊の海外派遣を本来任務へ格上げする省格上げ法案も成立した。

今、教育は小学校から大学まで、いじめ、不登校、校内暴力、学級崩壊、青少年犯罪等などあまりに多くの問題を抱えている。それで、教育基本法の「改正」が必要という空気を作ってきた。しかし、今の教育が抱えている問題は、教育基本法とは別次元の問題である。教育基本法の改正をしなれば解決しない問題でもなければ、改正すれば解決する問題でもない。

(旧)教育基本法前文は、「われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない」と宣言している。憲法の規定する人類社会の普遍的価値(人権、平和、民主主義)を規定する教育基本法を何故今ばたばたと改正する必要があったのか?それは、憲法「改正」、9条改悪をめざしている安倍内閣にとって憲法と一体になってそれを支える教育基本法の存在が邪魔になって仕方がなかったからであろう。

教育基本法は、先の戦争で、日本が極端な国家主義と民族主義に走ったのは、教育が国家の手段と化したからという反省の上につくられたものである。教育は国家の奉仕すべきでなく、国家が教育に奉仕すべきであるという理念である。

安倍内閣が何を目標しているかこれではっきりした。愛国心・道徳心・公共の精神を教え、教育システムを能力主義により再編し、再び教育を国家への奉仕者に変え、日本を海外で戦争のできる国にしようとしている。

私たちは、子どもや孫のためにそのような策動を断じて許さない。ともにがんばりましょう。

「折尾9条の会」第3回総会に50名を越す参加

賛同者・憲法改悪反対署名を大いに広げよう！

12月9日(土)午後2時よりオリオンプラザにて折尾9条の会 第3回総会が開催され、参加者は50名を超えました。

来賓として、元憲法9条北九州ネット代表で、北九州市長予定候補の三輪俊和さん、上津役9条会 木村さん、八幡東区9条の会石井さんよりそれぞれ連帯の挨拶をいただきました。

経過報告では、5月に行われた第2回総会以後の運動を確認。この間、折尾駅前街頭署名11回(延べ33回)、折尾サンリブ署名1回(延べ3回)、署名683筆(延べ35

44筆)。賛同署名は27名の拡大(延べ117名)。ミニ学習会は3回(延べ3回)。街頭署名、賛同署名いずれも目標には及びませんでした。時期総会までに街頭署名6000筆、賛同署名200筆を新たな目標とすることを確認し、財政報告では、第2回総会以後、賛同者へのカンパ要請や個人による毎月の恒常カンパ等で、約10万円集めることが出来ました。

質疑応答では、「折尾駅西口での署名をしてはどうか?」「会則に総会での決定権を付け加えるべき」などの意見。『折尾9条の会』会則第2条の「憲法9条改悪反対の一点で共同し行動する」ことで一致していくことなども議論の中で確認しあいました。

記念講演として、縄田浩孝弁護士(小倉東総合法律事務所)より「安倍内閣と憲法九条改定について」という演題で講演していただきました。手取りが7万円しかない労働者、不安定雇用、成果主義賃金などの競争社会の中で非人間的な生活を強いられている人や、北九州市の生活保護問題。過労死・過労自殺の問題など、憲法の精神からかけ離れた「勝ち組」「負け組み」といわれるような格差社会が作り出されていること。人の命が犠牲になり、生命の平等が崩壊し、それが「戦争する国」となっていくことに触れ、憲法9条が戦争をしない国の唯一の法であると話されました。

最後に募金の訴えをし、その場で17262円のカンパが寄せられました。みなさんご協力ありがとうございました。(折尾9条の会事務局 清水)

「本城・赤坂九条の会」が、第2回総会開催

昨年12月に結成された「本城・赤坂九条の会」は、12月16日(土)14時から、第2回総会を開きました。会場の赤坂市民センターホールに30数名が集まり、学習とこの一年間の活動を振り返り、これからの活動予定、役員体制などを決め「総会宣言」を参加者全員で確認しあいました。

総会は、戦争はいらぬとうたう「九条で3×3(サンサンサン)」・三輪俊和さんの応援歌「えがいの街」の2曲をアコーディオン伴奏で全員で楽しく歌ってスタート。

開会挨拶に続いて、来賓として「九条の会・北九州憲法ネット」代表の荒牧啓一弁護士が教育基本法のことや防衛省などのことを話され、憲法前文を示して、まずこれを読もうと呼びかけました。続いて、九条を守る折尾の会、日本共産党から連帯の挨拶がありました。「九条の会・北九州憲法ネット」の元代表三輪俊和さんも元気いっぱい参加され、楽しくとてもわかりやすく話されました。

基調講演をお願いした棚次奎助さんは、三輪さんと同じ北九州市立大学の教授で、ガッチリと握手を交わされました。

棚次さんは、「憲法と教育基本法の改悪—そんなに急いでどこへ行くのか—」と題して約一時間話されました。憲法と教育基本法を対置され、共通の理念、人類社会普通の理想原理(人権、平和、民主主義)、そして二度と戦争をしない国に！と決めた第9条は、憲法の基本条項であることを分かりやすく話されました。教育基本法の「改正」については、「教育病理(いじめ・不登校など)」と「社会病理」について、くわしく説明、教育基本法を「改正」するのではなく、現行教育基本法に沿った教育実践こそ、抜本的解決につながると、訴えられました。

憲法と教育基本法の精神、一人ひとりの命を大切に、認めあい助け合って生きることができる平和な社会こそが理想の社会であること。「戦争をするのは人間。戦争を止めるのも人間！」と話され、今こそ九条の会を大きく広げて、憲法九条を守ろうと結びました。

参加者からは、「歌声があつて楽しかった」「三輪さんの話は、具体的でわかりやすかった。三輪さんを市長に」「棚次さんの話で、家族の変化、社会の変化はまさに自分のこと。声かけを進めよう」などなどなんとかしたいの声がたくさん聞かれました。これから、宣伝署名活動とあわせて楽しい交流・楽しくなる学習を計画していき、九条の会を広げていきたいと思ひます。(本城・赤坂九条の会事務局 山本猛雄)

平和を守る映画づくりに参加しませんか

今、日本国憲法公布60周年を記念した劇映画「日本の青空」が、進んでいます。敗戦直後、民間の「憲法研究会」が作成した草案が、実はGHQ(連合軍総司令部)憲法案の手本となっています。

草案作成の中心人物・憲法学者の鈴木安蔵がこの映画の主人公。「占領軍の押し付け憲法論」がまったくの幻に過ぎないことや、憲法誕生をめぐる秘話など、真実のドラマが映画化されています。

映画製作委員会は、「平和憲法を守る映画づくりに参加しませんか?あなたの一口が『憲法の未来』につながります!」と呼びかけています。

この映画の総予算は2億円です。この資金を“製作協力券”の普及・販売でまかなう計画です。製作協力券1枚1枚が映画の製作資金となります。「九条の会・北九州憲法ネット」は、映画製作運動に参加して、製作協力券を販売しています。みなさんのご賛同、ご協力をよろしくおねがいいたします。

監督は、山本薩夫、黒澤明監督らの助監督を務め、1981年、後藤俊夫監督、神山征二郎監督とこぶしプロダクションを設立した大澤豊。代表作品は、「GAMA一月桃の花」(1996)「アイ・ラブ・ユー」(1999)「アイ・ラブ・ピース」(2003)など。「日本の青空」は今年末まで撮影を続け、来春に公開予定です。

配役は次のとおり、日本を代表する役者ばかりで、大変魅力にあふれています。

あなたのご参加をお待ちしています。



加藤剛
(高野岩三郎)



高橋和也
(鈴木安蔵)



藤谷美紀
(鈴木俊子)



水野久美
(河田暉子)



岩本多代
(中山選子)



山下洵一郎
(岩淵辰雄)